【実施報告書】

海の祭大会議2019
in 日本財団「海と日本プロジェクト」

一般社団法人マツリズム

2020年4月17日

Copyright 2018 一般社団法人マツリズム All Rignts Reserved.

目次

- 海の祭大会議概要（p.2）
- プログラム内容

  ・第1部について（p.3）
  ・第2部について（p.4-6）
  ・第3部について（p.7-10）

- PRについて（p.11-12）
- アンケート結果（p.13-14）
- 内部振り返り（p.15）
- 参考資料（p.16-17）
- 考察・まとめ（p.18-19）

Copyright 20120一般社団法人マツリズム All Rignts Reserved.

海の祭大会議概要

イベント概要

イベントタイトル	海の祭大会議2019
イベントの目的・ねらい	日本全国の「海にまつわる祭の担い手」が集結して交流する、日本で初めての試み。各地の祭の魅力を知り、それぞれの祭の発展や未来をつくっていくための意見交換を行い、これまで知らなかった「海の祭」の魅力と可能性を探り発信していく場。
日程	2019年12月7日
開催場所	日本財団ビル8F（東京都港区赤坂1-2-2）
参加人数	49名（北海道、岩手、山形、秋田、新潟、石川、愛媛、島根からの参加者も含む）
協力	日本財団「海と日本プロジェクト」
告知方法	「海の祭ism」プロジェクトで今年関わった祭の担い手と体験プログラム参加者へ直接連絡（メール、SNS等）

実施内容

16:00 受付開始
16:30 開会・オープニング
第1部 ゲストトーク
第2部 海の祭ismプロジェクト報告
・海の祭体験プログラム報告
・祭りの実態調査結果
・海の祭訪問／取材
第3部 祭の課題解決ワークショップ
19:00 懇親会
20:00 終了

Copyright 2018 一般社団法人マツリズム All Rignts Reserved.

プログラム内容

第1部：ゲストトーク

初対面の人同士が交流しやすいよう、ゲストパフォーマンスとしてネタを披露して頂き、参加者の緊張をほぐしてもらい、マツリズム代表大原と「海と祭」について対談しました。

<u>小島よしおさんトーク内容</u>

Q.今までで一番印象に残っているお祭りは？
A.蘇民祭。とにかく寒くて過酷で印象に残った。

Q.祭りは好き？
A.ネタ自体が祭りみたいなもの。祭り好き。

Q.好きなお祭りは？
A.地元の祭り。千葉育ちだから親子三大祭り、今住んでる浅草の鳥越祭りや三社祭。大神輿も担いだ。

Q.祭りの中でどんな瞬間が一番好き？
A.担いでいる人達の活気を遠目で眺めているのが好き。担ぐと圧がすごくて肩が痛い。

Q.なぜいつも海パンを履いている？
A.普通の洋服で「そんなの関係ねぇ」をやってもインパクトがないので、母親の店の常連客が二十歳の誕生日にプレゼントしてくれた海パン（ブーメランパンツ）を衣装にした。

Q.おっぱっぴーはナゼOcean Pacific Peace？
A.おっぱっぴーが先に誕生。カンニング竹山さんの助言で後付けした。
→祭りの起源にも後付けのものがある。お祭りとおっぱっぴーは一緒、「こじまつり」をやりましょう！

Q.海の祭りの魅力を子供達に伝えるには？
A.参加してもらうのが一番。SNS等で面白い編集（流行りのものをくっつける等）をして発信すると、今まで食いつかなかった世代が食いつくかも。海外の人はインスタを情報収集源として使っている。

Q.何かみなさんへ一言
A.その場所でしかできない事やその場所にしかないものはすごく魅力がある。その魅力を分かりやすく伝えるコンテンツがあると、訪れた時の喜びが大きくなる。

Copyright 2018 一般社団法人マツリズム All Rignts Reserved.

プログラム内容

第2部：海の祭ismプロジェクトプログラム報告（概要説明）

はじめに、マツリズム、海と日本プロジェクト、海の祭ismプロジェクトについての概要説明を行いました。

第2部：海の祭ismプロジェクトプログラム報告（体験プログラム）

2019年は、二つの海の祭（愛媛県上島町「佐島の秋祭り」岩手県釜石市「釜石まつり」）にて、大学生対象に祭りを通じて地域を学ぶ体験プログラムを行いました。

動画を観ながらプログラム内容の報告の後、体験者によるトークセッションを行いました。

受け入れ地域は佐島から檜垣さん、釜石から久保さん、学生参加者からは藤井さんと荒川さんに登壇していただきました。

祭の参加体験は人を成長させ地域に愛着を持つようになること。一方、ヨソ者を受け入れる中で地域内でも良い変化が起きると語ってくれました。

Copyright 2018 一般社団法人マツリズム All Rignts Reserved.

プログラム内容

第2部：海の祭ismプロジェクト報告（海の祭り開拓/取材）

今年マツリズムは、海の祭の魅力を世の中の多くの人へ知ってもらうため、日本各地の海の祭へ訪問/取材させてもらい、レポートを海の祭ホームページにて発信しました。

- とも旗祭り（石川県）
- ホーランエンヤ（島根県）
- 厳島神社例大祭（北海道）
- 土崎神明社祭（秋田）
- 姥神大神宮渡御祭（北海道）
- 琴浦精霊船行事（新潟県）
- 黒島天領祭（石川県）
- 坂越の船祭り（兵庫県）
- 三谷祭り（愛知県）

大会議ではそれぞれの祭の紹介をし、取材者の個別の視点からそれぞれの祭の「海の祭りism（すごいところ）」を発表させていただきました。

今年は北前船ルートを基軸に訪問地を決め回ったことで、地理的には遠いところであっても文化や風習として似たものや深い結びつきがあったりと、新しい発見もありました。

Copyright 2018 一般社団法人マツリズム All Rignts Reserved.

プログラム内容

第2部：海の祭ismプロジェクト報告（祭りの実態調査結果）

マツリズムは今年、日本財団 海と日本プロジェクトの協力のもと、全国10万人を対象に祭の実態調査を行いました。海の祭大会議ではその結果を初めて公に発表させていただきました。

この調査を通じ、日本人の祭りへの参加実態や生活や地域コミュニティにおける「祭りの価値」を明らかにし、祭りを今後も続けていく上での「課題解決のヒント」を探ってまいります。

参加した祭りの担い手からは、**「自分たちの祭りの価値を見直すキッカケになった」「早速持ち帰って仲間と話したい」**という声も上がっています。

「祭の実態調査結果報告」では、脳科学者：澤口俊之先生から今回の調査結果に対するご意見をいただき、そのインタビュー動画を放映しました。

澤口先生ご自身も祭りが大好きで、幼少期の想い出を楽しそうに語ってくれた一方、**「人と地域に対する親和性の向上」や「人間関係力の構築」**など、脳科学的進化学的見地で祭りの価値について説明してくれました。

また、**感情と知性の挟間にある「好奇心」というものが担い手不足解決にも重要で、その好奇心が詰まったものが祭りである**とお話しされていました。

Copyright 2018 一般社団法人マツリズム All Rignts Reserved.

プログラム内容

第3部：祭りの課題解決ワークショップ

当日報告させていただいた調査結果も踏まえて、「海の祭の担い手を増やすには？」をテーマに意見交換を行いました。各テーブルごとに、祭の担い手・祭に参加した大学生・祭に想いのある社会人・マツリズムスタッフ等が同席し、様々な視点から熱い議論を交わしました。

大会議後のアンケートでは「一番良かったプログラム」に、半数以上の人がこのワークショップを挙げてくださり、多様な参加者のポテンシャルを発揮する機会をつくることができました。

「自分たちだけでこういう会議は気恥ずかしさもありできない。外の人が関わって一緒にやってくれたら嬉しい」という声もあり、このような場の可能性を感じました。

Copyright 2018 一般社団法人マツリズム All Rignts Reserved.

プログラム内容

第3部：祭りの課題解決ワークショップ

テーマ：「海の祭の担い手を増やすには？」

海の祭りの担い手、体験プログラム参加大学生、一般の方がまんべんなく入るよう5人 x 6グループを作ってワークショップを行った

ワークショップの流れ

ワーク1.対象とする担い手の種類を書き出す
現在、祭りに参加している担い手の種類を、グループごとに出してもらい、整理する

例）コアな担い手　祭り全般の運営（先祖代々の担い手・新住民の担い手）
例）サブの担い手　当日や何日かの手伝い（住民・OB・子ども・ボランティア）

ワーク2.どの担い手を増やしたいか考える
ワーク1で出た担い手のうち、どの担い手を増やしたいか増やすこ/とができるのか考える
・増やすターゲットの担い手を整理して１つに絞る
・全体共有して、バランス見て、場合によってはターゲット変更

ワーク3 その担い手が、なかなか増えない原因は何か課題を出す
ワーク2.で設定した増やしたい担い手がなぜ増えないのか、その原因を考えられる限り書き出し、整理する

ワーク4.どうすればその担い手が増えるか案を出す
ワーク2で設定した「増やしたい担い手」がどうやれば増えるか、アイデアを各自で書いてもらい、出てきたアイデアをグループ内で共有しながら整理する

ワーク5.ワクワクするアイデアを決める
ワーク4で出したアイデアを、「ワクワク感 高←→低」「効果 高←→低」の二軸で分類していく。各テーブルでコストが低く、効果が高いゾーンに近いものを一つ選んでおく

・会場全体でいいアイデアを共有する　5分
・アイデアに対して講評を行う　　5分

※ワークショップ開催報告資料は別添資料参照

Copyright 2018 一般社団法人マツリズム All Rignts Reserved.

プログラム内容

第3部：祭りの課題解決ワークショップ

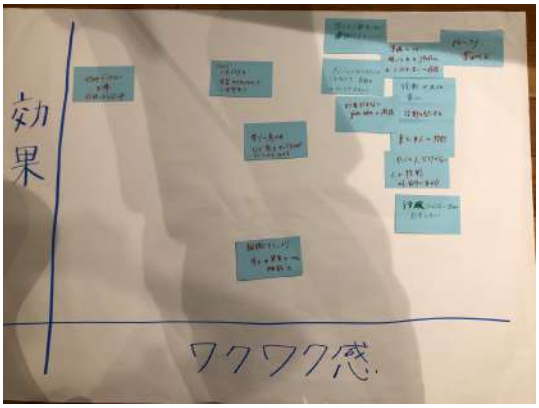
ワークショップ結果

A～F班に分かれ、ワークショップを行い、それぞれの班が選んだターゲットと最終的に発表したアイデアを次にあげる。

A班

ターゲット：地域外にいる出身者・縁のある人

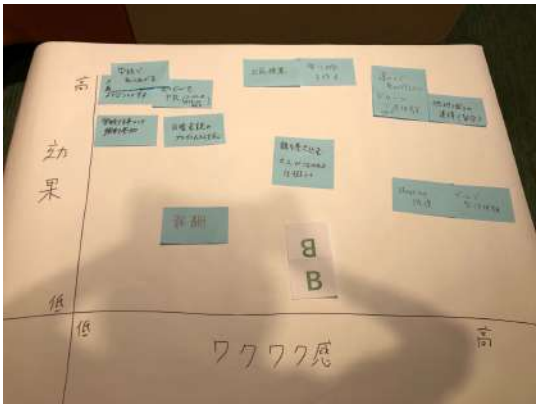
- **外から来る人たちにも祭りの中で役割を作り**、参加しやすくする
- 担い手自身が思いっきり祭りを楽しみ、その輪に外の人も巻き込み、一体感を作る
- 行政が祭りに関わるのはいいが、関わりすぎると面白くなくなる



B班

ターゲット：小・中学生

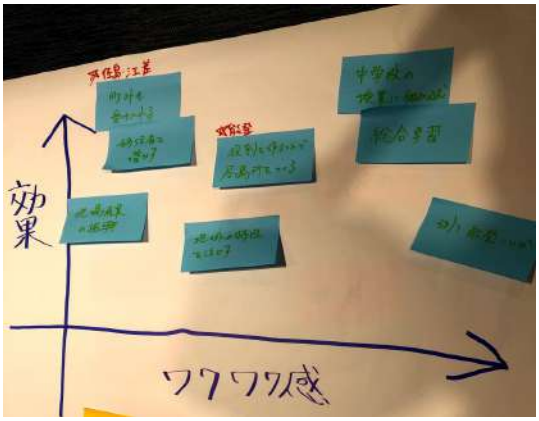
- 地域の子どもたちにむけ、**最新技術を活用したインナープロモーション**を行う
- ドローンを使って祭りや地域を撮影し、かっこいい映像を作る
- 近年流行のVRで祭りの面白さやカッコよさを伝える



C班

ターゲット：（地域の）こどもたち

- 中学生まで役割があるが、高校生が役割がないので、**高校生の出番をつくる**
- 閉鎖的な雰囲気もまだあるため、移住者や地域外の人も受け入れていく機運を作っていく
- 転勤族の人たちにも声をかけ、**親を誘うことで、子どもたちも祭りに参加してもらう**



Copyright 2018 一般社団法人マツリズム All Rignts Reserved.

プログラム内容

第3部：祭りの課題解決ワークショップ

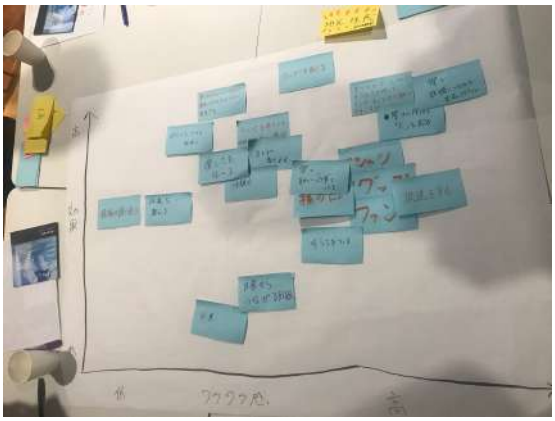
ワークショップ結果

A～F班に分かれ、ワークショップを行い、それぞれの班が選んだターゲットと最終的に発表したアイデアを次にあげる。

D班

ターゲット：地元住民

- 祭りを再び男女の出会いの場にし、**祭りに真剣に取り組むとモテる**という仕組みをつくる
- **祭りに取り組む人のストーリーをインターネットで紹介**する



E班

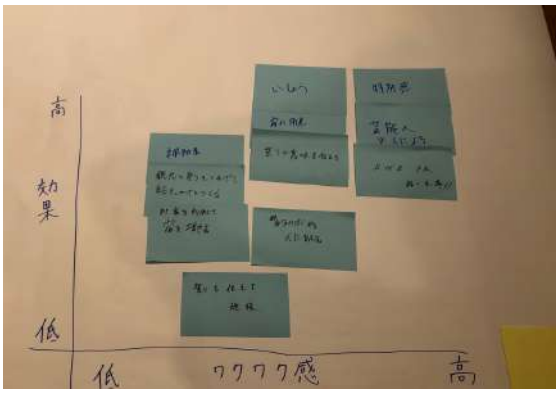
ターゲット：こどもたち

- 子どもたちが参加してもらうために、**お父さんたちのかっこいい姿**をみせる
- お父さんが参加しやすいよう**運営のハードルを下げて**、出番をつくる
- 子どもたちの参加についてもハードルを下げて、参加しやすくする

F班

ターゲット：別の地域の学生

- 地元出身の芸能人が祭りに参加することで**メディアが注目し**人が集まる
- **SNSを使って祭りの情報を発信し**、祭りのストーリーを伝えていく
- 補助金等を活用し、空き家を改装した地域外の**学生が泊まりやすい宿泊施設**をつくる



Copyright 2018 一般社団法人マツリズム All Rignts Reserved.

PRについて

【成果】メディア掲載

No.	メディア名	媒体手段	放送日・掲載日
1	テレビ愛知	テレビ	2019年10月2日
2	NHKworld	インターネット、NHKBS1	2020年1月23日
3	ソーシャルイノベーションニュース	インターネット	未定

- NHKworld「RISING」

- テレビ愛知「10っとく！」

https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/en/ondemand/video/2042093/

Copyright 2020 一般社団法人マツリズム All Rignts Reserved.

PRについて

プレスリリース

<プレスリリース日> 2019年11月29日

ご取材のお願い

2019 年 11 月吉日

報道関係者各位

日本初！北海道や愛媛県などから「海にまつわる祭りの担い手」が大集合

「海の祭大会議」開催

10 万人に実施した祭りの実態調査結果に脳科学者・澤口俊之氏がコメント
さらに、マツリズム代表と芸人・小島よしお氏が海と祭りについて対談
12 月 7 日(土)16 時半～19 時　於：日本財団ビル 8F

拝啓、時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜わり、心より厚く御礼申し上げます。

一般社団法人マツリズムでは、「海の祭 ism プロジェクト」と題して、昨年より主に大学生を対象に海の祭に参加体験するプログラムの実施や、魅力的な海の祭の取材・発信などを行ってまいりました。このたび、**これまで行なってきたプログラムの総括や、今年 10 万人を対象に行った「海と祭」に関する調査結果の発表の場として、「海の祭大会議」を 12 月 7 日（土）に実施する運びとなりました。**このイベントは、次世代へ海を引き継ぐために、海を介して人と人がつながる"日本財団「海と日本プロジェクト」"の一環です。

当日は、ゲストとして**芸人の小島よしお氏を招き、マツリズム代表大原と「海と祭」に関するトークセッションを行います。また、日本人 10 万人に対する「祭りの実態調査結果」に関して、脳科学者・澤口俊之氏が主に「祭りの教育的価値」について動画コメントをお寄せ**いただいております。

日本には祭りが豊富に存在しており、その中には海にまつわるものが多くあります。昨今、各地域では祭りの担い手が不足しているところもあります。**今回、北海道や岩手県、愛媛県など 1 道 7 県から伝統的な祭りの担い手が一堂に会し**、課題感を共有しながら、いかに未来に継承していくかをこの会議では話し合います。

ぜひ、貴媒体にて「海の祭大会議」をご紹介いただきたく、ご多忙の折誠に恐縮ではございますが何卒ご検討のほど宜しくお願い申し上げます。ご取材頂ける際は、添付の返信フォーマットに必要事項をご記入の上、**2019 年 12 月 6 日(金)までにご返信くださいますようお願い申し上げます。**

敬具

イベント名	海の祭大会議
開催日時	2019 年 12 月 7 日（土）16 時半～19 時（16 時～受付開始）
開催場所	日本財団ビル　8F（緊急連絡先：
交通手段	銀座線「虎ノ門」駅、南北線・銀座線「溜池山王」駅、丸の内線・千代田線「国会議事堂前」駅
内容	16 時　受付開始 16:30　開会・オープニング 第 1 部　ゲストトーク 第 2 部　海の祭 ism プロジェクト報告 ・海の祭体験プログラム報告 ・海の祭訪問／取材報告 ・祭りの実態調査結果報告 第 3 部　祭の課題解決ワークショップ

■スペシャルゲスト

小島 よしお（こじま　よしお）
タレント・お笑い芸人。1980 年 11 月 16 日生まれ。沖縄県出身。O 型。沖縄県島尻郡久米島町生まれ、千葉県千葉市稲毛区育ち。2007 年、トレードマークの海パン姿でのギャグ「そんなの関係ねえ！」がブレイク。同年の『流行語大賞』にノミネートされる。雪まつりに海パン姿で登場するなど身体を張ったパフォーマンスで活躍する一方、早稲田大学教育学部卒の頭脳を生かし、最近では子供たち向けのイベントに出演するなど活動の幅を広げている。

澤口 俊之（さわぐち　としゆき）
1959（昭和 34）年東京生れ。北海道大学理学部卒。京都大学大学院理学研究科修了。エール大学医学部を経て、京都大学霊長類研究所助手、北大大学院医学研究科高次脳機能学分野教授を経て、人間性脳科学研究所所長。2011 年より、武蔵野学院大学教授も兼任。専門は認知脳科学、社会心理学、進化生態学で、思考や自我のペースであるワーキングメモリに照準し、前頭前野を中心に研究。
著書に『平然と車内で化粧する脳』（共著）、『わがままな脳』『あぶない脳』などがある。

■主催者代表

大原 学（おおはら まなぶ）
一般社団法人マツリズム代表理事／マツリテーター
1983 年神奈川県南足柄市生まれ。早稲田大学人間科学部在学中に祭りの魅力に目覚め、米国留学時にはソーラン節の講及を行う。日本 GE 株式会社、NPO 法人クロスフィールズでの勤務を経て、2016 年に 11 月マツリズムを設立。「祭の力で人と町を元気に！」をモットーに、全国の祭りにて様々な活動を行う。
2019 年オーライニッポン大賞審査員特別賞を受賞。

■会場
日本財団ビル　8F
〒107-8404
東京都港区赤坂
1 丁目 2 番 2 号日本財団ビル

<交通機関>
銀座線「虎ノ門」駅、
南北線・銀座線「溜池山王」駅、
丸の内線・千代田線「国会議事堂前」駅

振り返り

- NHKworldによるマツリズム代表密着取材について、佐島プロジェクト取材後のやり取りの中で「海の祭大会議」の取材価値を強く提案した結果、取り上げていただくことができた。全世界160カ国の配信なので非常に大きな成果を得ることができた。

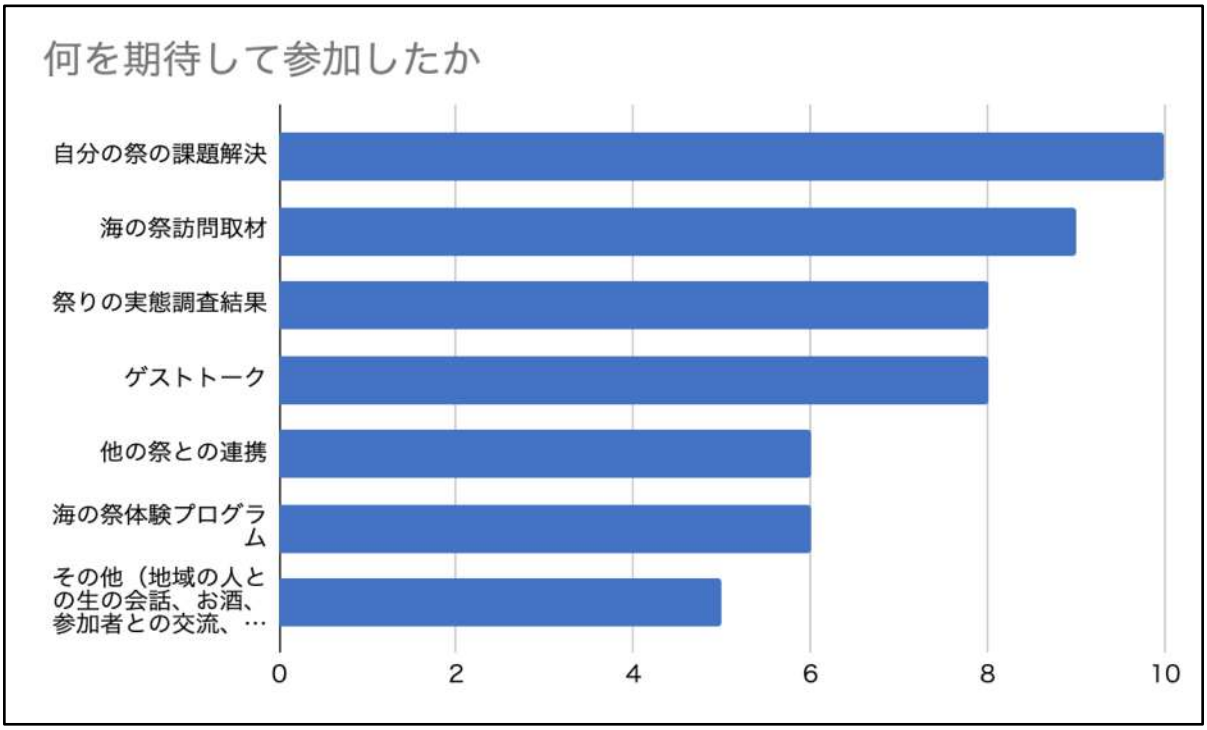
- 秋田テレビにも来ていただけたが取り上げてもらうに至らなかったり、放映日が未定のままのメディアもあった。今後はメディアの来訪目的の把握や、現場だけでなくイベント後の個別対応等、広報担当者との連携の強化が必要だと感じた。

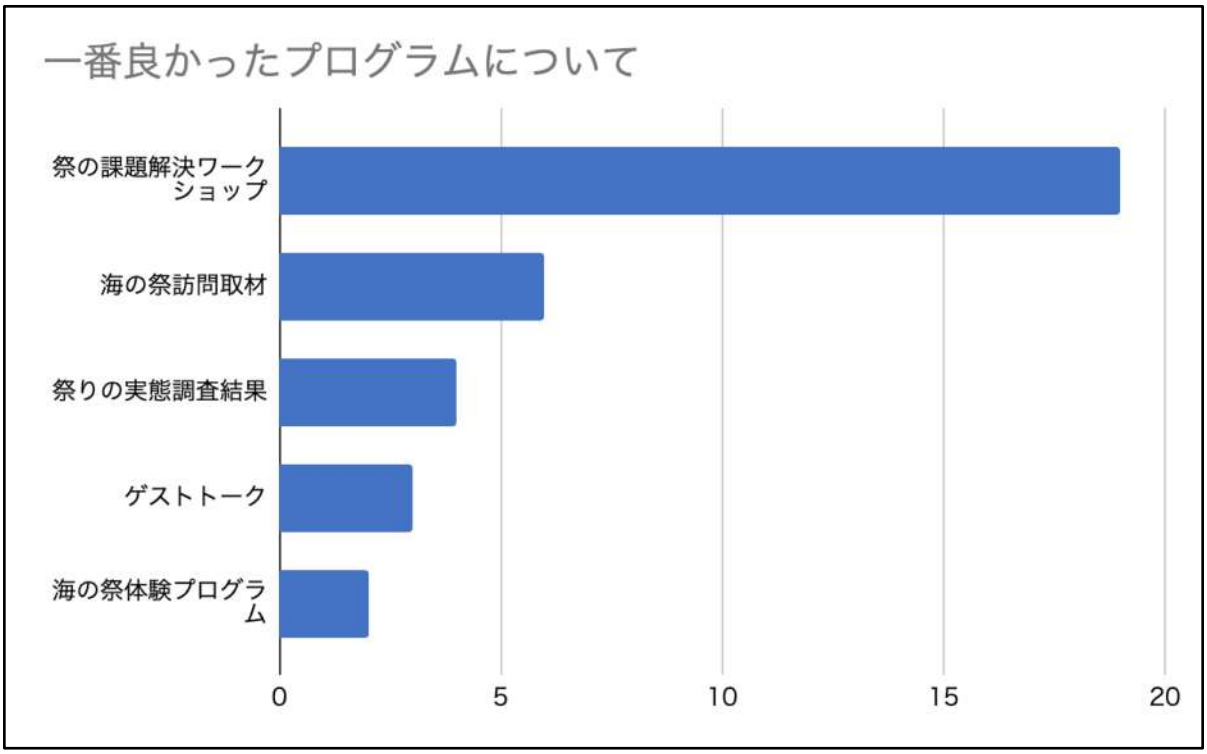
- メディアも働き方改革の影響で土日の取材が難しい中、広報担当者の粘りで3社に来ていただくことができた。

Copyright 2020 一般社団法人マツリズム All Rignts Reserved.

アンケート（独自）結果

振り返りアンケート （期待したことと満足したプログラム / 複数回答）





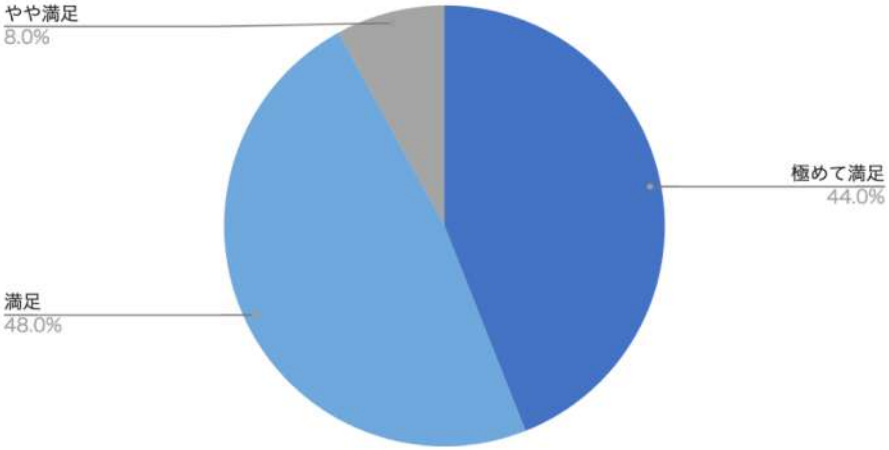
Copyright 2018 一般社団法人マツリズム All Rignts Reserved.

アンケート（独自）結果

振り返りアンケート（全体の満足度）

92%が極めて満足または満足と答えており、満足度は高かった

満足度（極めて満足、満足、やや満足、どちらでもない、やや不満足、不満足、極めて不満足の7段階で回答）



次回このようなイベントがあった場合、約70%が「参加したい」と回答（その他30%は「条件による」と回答）

振り返りアンケート（参加者の感想）

- 様々な地域の現状や祭りの意義を再確認できた。
- たくさんの担い手や参加者の話が聞けて良かった。
- ゲストの意見を聞くことができた。
- 祭りに参加する人、祭りの担い手は熱い！
- 祭りの歴史や意義等に触れる機会を増やすことで、地域外の人を巻き込むことができるのではと思った。
- 調査結果や他団体の課題が共有できて有意義だった。
- 人間関係、人付き合いは祭りから学べるという調査結果に非常に納得した。
- 他の地域の海の祭りを知る事ができて、そこに行きたい気持ちが高まった。
- 各地の担い手と知り合うことができた。
- 自分達の祭りを見直す良いきっかけになった。
- 調査結果で出た、祭り参加者が地域に愛着を持ち貢献したいと思う割合が高いことを、みんなに共有したい。
- 年齢により祭りへの意識が違う事が分かった。
- 祭りと地球環境問題とのつながりが興味深く、共有したいと思った。
- 祭りの実態調査結果が非常に参考になり、自団体へ報告しようと思う。

Copyright 2018 一般社団法人マツリズム All Rignts Reserved.

内部振り返り

良かったこと

- 全国から海の祭の担い手に集まってもらったこと
- 小島よしおさん、澤口先生など印象に残るゲストに登場してもらい記憶に留まり満足度も上がったこと
- 祭りの担い手が、自分たちの祭りの価値や魅力を再認識できたこと
- 多様な立場のメンバーがおり、wsが活性化し、具体的なアイデアが出てきたこと
- 釜石の大漁旗や各祭りのポスター等の展示により、海の祭大会議の雰囲気を醸し出せたこと
- スタッフがそれぞれに動き、運営に致命的なミスなく進んだこと
- マツリズム（海の祭ismプロジェクト）の価値を感じていただいたこと

改善点/反省点

- スケジュールの決定が遅くなってしまい、担い手の方に負担をかけてしまったこと
- 最後の準備がバタついてしまい、特定のスタッフに過度に負担がかかったこと
- 当日、片付けなどスタッフ間の役割分担がしっかりと共有されておらず、一部スタッフに重い負担がかかってしまったこと
- 配布物内容ののチェックたなど、事前に確認できなかったこと
- 当日のタイムスケジュールがタイトすぎて、本プロジェクトの成果や学びを伝えきれなかった可能性があること
- 調査発表のスライドの文字が見づらかったりでうまく伝えられなかったこと
- イベント開始前の時間や懇親会の時間がしっかりと設計されておらず出席者を手持ち無沙汰にさせてしまったこと
- 集まってきている人のポテンシャルを活かしきれなかったこと（担い手が持っているノウハウや想いを共有する場をもう少し持てればよかった）

Copyright 2018 一般社団法人マツリズム All Rignts Reserved.

参考資料

※澤口先生インタビュー内容まとめ（全部で2時間程度）

祭りは「協調性」を育む場で、参加することで「人間関係力」が高まる

- （祭りの中で）赤の他人と身体的接触をしながら協調活動をすることにより親和性が高まる。また、人だけでなく地域に対する親和感（愛着）も向上する
- 人間関係力を向上させることは、結婚しやすくなることにつながる
- 元来人間は協調性が高く社会関係に参加する能力のある生物。しかし現代にはそれを育む機会がなかなか存在しない

祭りを体験することで「人間関係」を「楽しく」学ぶことができる。教育にも良い。

- 祭りは学校や職場では出会わない多様な世代、多様な立場の人たちと交わる場
- 図鑑等で学んだ子供達より実体験して学んだ子供達の方が良い結果が出るという研究がある。体験なくして成長なし。体験なくして勉強なし。

祭りに参加することで、「脳のアンバランスさがfix」される

- 祭り体験はネイチャーfix（都会の人間が3、4日自然体験をすることにより、脳のアンバランスさをfixする。IT関係者の需要が高い）のように、協調性をFixできる機会
- 人間は協調的な生き物であるにも関わらず、日常生活では協調性を発揮する機会がない

古来から続く（伝統的な）祭りは人間の本質にとって意味があるから残っている

- 文化は進化する。いらないものは淘汰される
- 祭りには古来の規範が必ずあり、理屈がいらない。その規範を守りその中であえて一般規範を破ることが楽しい
- 文化的連続性を残す祭りの担い手と、科学的連続性を残すため知の連鎖の一つとなっている科学者は似ている

Copyright 2018 一般社団法人マツリズム All Rignts Reserved.

参考資料

※澤口先生インタビュー内容まとめ（全部で2時間程度）

地域コミュニティに対する活動は「幸福感」と「協調性」を高め、「健全な脳の発達」に寄与する

- 家族は幸福感の源で重要な存在であるが、地域コミュニティ=家族の集まりで構成される種族社会もそれと同等に重要である。これは人類にしか見られないもので、「コミュニティなくして人間性なし」と言える
- 祭りは自分の住んでいる地域コミュニティに対するボランティア活動。だから幸福感が高くなる
- 人間はもともとコミュニティに属して社会的にうまくやっていくという固定された脳回路（ハードウェア）を持っている

祭りは婚活に良い

- 祭りの後の寂しさを利用して女性を口説く。「伝統」という後ろ楯があるからできる
- 祭りの中だからこそ異性に声をかけることができる
- 男女関係を結ぶために祭りがあるという研究がある

祭りの担い手不足解決のためには「好奇心を煽る」ことが必要

- 人類進化における好奇心の原動力は相当強く、祭りに人を呼び込むには好奇心を煽る事が必要
- 祭りはハレの日のもの。好奇心をくすぐる要素が詰まっている
- 好奇心は感情と知能の中間にある独特なもの

（澤口先生の個人的な祭りと関わりと持論）

- 葛飾区の下町っ子で小さな頃から祭りが大好き
- 運営側はめんどくさいけど自分で創っている感覚があり面白い
- 行政指導や新住民（通り過ぎるだけ）の増加で地元の担い手は減少し、大好きな祭りがなくなってしまった。今は逆に行きたくないという気持ち。
- 高齢者から近しい先輩まで、しきたりなどいろんな事を教えてくれて楽しかった
- 赤の他人のおじいさんは、祭りを通じて仲間になる。
- 祭りは楽しさが大事で、研究対象にして分解しようとするとつまらなくなる

Copyright 2018 一般社団法人マツリズム All Rignts Reserved.

考察・まとめ

海の大会議を通じて分かったことまとめ

祭の実態調査で分かったこと

- 祭りには人々の地域への愛着や貢献意欲を高める力がある
- 祭りをする地域は幸福度が高い傾向にある
- 全国の祭りのうち1/4が「存続が危機的」と答えている
- 全体的な課題は「担い手不足」が一番であるが、世代間によって課題意識に大きな差があり、必ずしも適切なアプローチが取られていない

（海の祭の調査）

- 海の祭りに行くことは海への愛着を高める
- 海の祭りに行くことで、海に対する畏敬の念が高まる
- 海の環境変化が海の祭りの存続にも大きく関わる

澤口先生へのインタビューで分かったこと

- 祭りの体験が協調性と人間関係構築力を高める
- 祭りは婚活に効くのではないか
- 祭りへの参加は脳の健全な発達に役立つ
- 祭りの担い手不足解決のためには好奇心が重要

海の祭大会議で分かったこと

- 非常に熱い想いを持った海の祭りの担い手がたくさんいる
- 一概に担い手不足といっても、様々な種類の担い手がおり、どの対象にアプローチするかでアクションは変わってくる
- 好奇心が強くフラットな目を持った大学生（高校生）の地域への関わりは地域の祭りの担い手にとって非常に有益である
- 地域内では子ども、高校生に対するアプローチが有効
- フラットな対話の場作りは祭りの課題解決に非常に有効な手段

Copyright 2018 一般社団法人マツリズム All Rignts Reserved.

考察・まとめ

海の祭大会議を踏まえた今後の展開案

今年一年の成果を踏まえ、現時点でのマツリズムとして今後の可能性を以下に整理したい。調査結果で得たこと活用すること、また海の祭り大会議で感じた様々な可能性を織り込みながら今後の活動につなげていきたい。

活動例）

- 大学生が地域の外から祭りを体験する機会は、彼らの成長や地域・海への愛着形成は勿論、地域に刺激を与えうるという点でも非常に有用で、引き続き実施する価値があると考える。今後はより**地域への還元の意識を高めた活動**へと引き上げていくことが重要と感じる

- （大学生が触媒となって）**高校生など地域の子どもたちに対して祭りの魅力を伝え、祭りの参加を促す**プロジェクトの実施を検討する。プログラムの中で海の祭りの現状や、海の環境と祭りの関係なども伝えられると尚良い。

- 海の祭りの**担い手の課題解決と祭りのアップデートに**向けた全3回程度の**伴走型のワークショッププログラムの実施**と展開
  - 今回の**調査結果で出てきた結果をインプット**しながら、実際に地域に出向いてワークショップを行い、担い手に**アクションプラン**を立ててもらい、実行する
  - いくつかの地域を選定して、ワークショップをフレームワーク化し、横展開を睨む

- **祭りに関するフィールド調査**
  今回の定量的な調査で出た仮説を深掘りし、地域でのベストな事例をまとめていくための**定性的な調査**の実施
  - 特に澤口先生の話していた**祭り参加と婚姻/出産**の関係には興味があり、社会的価値を感じる（子どもの頃に祭り参加したことある/ないで人間関係構築力に相関があるかなど）

  →「（海の）祭りを残していくには白書」としてまとめていく

- **海の祭の担い手同士の「交換留学」プログラム**の実施。実際に別の地域の祭りを体験すると同時に、ノウハウ交換をする機会を創出する